

経験録を活用した幼稚園教育実習の振り返り —実習生と実習担当者の比較検討を通して—

Reflection of Kindergarten Teaching Practical Training Using Experience Records —Through Comparative Examination of Trainee and Trainer—

開 仁 志（人間科学部こども学科准教授）

Hitoshi HIRAKI (Faculty of Human Sciences, Department of Child Study, Associate Professor)

〈要旨〉

保育者養成において、実習は大切な位置を占めている。筆者は、実習の振り返りに活用するため、保育分野における「経験録」の開発に取り組んでいる。「経験録」は、実習で経験した内容をチェックリスト方式で記入し、振り返りを促すツールである。これまでに、実習生が経験録を活用して振り返りを行った結果の考察は行っていたが、実習担当者による経験録活用に関する研究は未実施であった。

そこで、本研究では、2016年度に実施した本学附属幼稚園の実習において、実習生と実習担当者がそれぞれ経験録を記入した内容を比較検討し、考察をした。その結果、実習生が経験したと思っていることと、幼稚園現場において実習担当者が経験させたと思っていることの共通点や相違点が明らかになった。実習生と実習担当者の両者が経験録を記入し照らし合わせることで、実習で何を経験するべきなのかを意識し、経験を積むことができるようにするための方策を考えるきっかけとなると考える。

〈キーワード〉

幼稚園、教育実習、経験録、振り返り

1 はじめに

保育者養成において、実習は大切な位置を占めている。厚生労働省雇用均等・児童家庭局長が出している通知「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」において、保育実習の目的は、「その習得した教科全体の知識、技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟させる」ことであると明記している。⁽¹⁾

そのように重要な実習であるが、実習における経験や学びの内容については、個々で差があることが指摘されている。例えば、他分野ではあるが、大山ら（2016）の研究では、社会福祉士養成において、実習生の自己評価を行ったところ、学習の達成度は学習内容によって差があることが明らかになっている。⁽²⁾ 保育分野においても、開（2016）の研究で、やはり実習生が経験する内容に差があるという結果が出ている。⁽³⁾ また、実習において、実習担当者と実習生による評価に差が出る場合があることが指摘されている。井澤ら（2015）の研究で、精神保健福祉援助実習において、実習生と実習担当者の評価を比較すると、非医療機

関ではある程度の相関が見られるが、医療機関ではほとんど相関関係が無かったというような結果が出ている。⁽⁴⁾

では、保育分野で実習生と実習生による評価に違いが出るのであろうか。

筆者は、2014年より「経験録」の開発に取り組んでいる。⁽⁵⁾ 「経験録」は、実習で経験した内容をチェックリスト方式で記入して評価し、振り返りを促すツールである。これまでに、実習生が経験録を活用して振り返りを行った結果の考察⁽⁶⁾は行っていたが、実習担当者による経験録活用に関する研究は未実施であった。このことから、本研究では、保育分野の実習の振り返りとして経験録を活用し、実習生と実習担当者の評価の違いについて考察を試み、今後の実習指導に生かしていきたいと考える。

2 目的

2016年度に実施した本学附属幼稚園の実習において、実習生と実習担当者が、各自経験録を記入した内容を比較検討し、共通点や相違点を明らかにする。

3 方法

3-1 分析対象者

①実習生

本学で、2016年度に幼児教育実習Ⅰを履修した実習生12名。配属は、本学附属幼稚園である星稜幼稚園6名、星稜泉野幼稚園6名。実習時期は、2016年9月5日(月)～9月16日(金)の中の10日間である。

②実習担当者

2016年度の幼児教育実習Ⅰにおいて、①の実習生を受け持ち指導した実習生配属クラス担任教員12名。

3-2 調査方法

実習生には調査の趣旨と概要、回答は成績その他に影響しないことを説明し、同意を得て実施した。実習終了後の振り返りの一環として、個別に15分程度の懇談を行い、実習生が経験録を記入したものを回収した。実施日程は11月1日(火)、11月11日(金)、11月14日(月)。

実習担当者には、園長を通じて調査の趣旨と概要を説明し、同意を得て実施した。経験録を11月4日(金)に筆者が附属幼稚園2園に持参した。実習担当者が記入後、11月30日(水)に回収した。

回収率は、実習生・実習担当者共に100%である。

3-3 調査項目

経験録の調査項目は、大項目5、中項目13、小項目102となっており、小項目について以下の区分で経験したもの全てにチェックもしくは記号を記入する。

本来の経験録は、実習生が記入することを想定して作られたものであるため、実習生を主語としてチェックを行う。しかし、本調査では実習担当者が記入する場合は、実習担当者を主語としてチェックするよう依頼した。()は実習担当者側がチェックした場合を示す。また、2015年度の調査で用いた経験録と本調査で用いた経験録の違いを区分ごとに※で示す。

(1) 説明

実習担当者からそれぞれの項目について説明を受けた。(実習担当者がその項目について実習生に説明した。)

※2015年度の調査では、「説明を受け、理解できた」であったが、理解できたかどうかは、実習生自身が判断しかねるという意見を受け⁽⁷⁾、本調査では「行動」レベルである「説明を受けた」事実のみチェックすることとした。

(2) 見学

実習担当者の実践や子どもの姿を見学した。(実習担当者が自らの実践や子どもの姿を見せた。)

※実習担当者が、実習生に「説明」をし、「意図的」に保育をしている姿を見せる場合だけではなく、実習生が子どもの姿や実習担当者の実践を「自然」と観察し学んでいる場合もあることが明らかになっている。⁽⁸⁾ このことから、本調査では、「説明を受け」と「意図的に」を抜き、「子どもの姿」を見た(見せた)を追加している。

(3) 経験

A 実習担当者が主で、実習生が副となり実践した。

B 実習生が一人で、あるいは主となって実践した。

※本来は、説明、見学を踏まえた上で実習担当者から確認を得て実践したものになるが、必ずしも順番どおりに経験しないことが明らかになっている。⁽⁹⁾ また、実習担当者からの確認を得て実施するというより、子どもとの自然な関わりの中で、実習生自身が判断して実践する場合もある。⁽¹⁰⁾ そのため、本調査では、説明、見学、実践という順番を指定する文は省いた。

3-4 分析方法

経験状況を「説明」、「見学」、「経験(A、B)」の区分に分けて各項目を単純集計し、実習生、実習担当者が実施した割合を「実施率」として示し比較する。それぞれ12名が全員実施した場合を100として実施率を算出している。

また、各クラスの実習生と実習担当者が経験録に記入した内容の一致した数を単純集計し、一致した割合を「一致率」として示し分析・考察を試みた。該当項目について、実習生と実習担当者のペア12組が全て一致した場合を100として一致率を算出した。

4 結果及び考察

4-1 幼児理解(表1参照)

「説明」の区分で見ると、実習生の実施率が62%、実習担当者の実施率が48%であり、実習担当者の実施率が低い。両者の全体的な一致率は65%である。「見学」の区分では、実習生の実施率が65%、実習担当者の実施率が47%であり、全体的な一致率は65%である。「経験A」の区分では、実習生の実施率36%、実習担当者の実施率22%で、どの項目も50%以下であり低い実施率となった。全体的な一致率は57%であった。「経験B」の区分で見ると、実習生の実施率が35%、実習担当者が22%で低い傾向である。全体的な一致率は67%である。

全般的に実習担当者に比べ、実習生の実施率が高いことから、実習担当者が意識的に説明したり実践の姿を見せたりしたと考えている以上に、実習生が自主的に幼児理解に努めている傾向が明らかとなったと考える。

4-2 専門職としての役割（表2参照）

「説明」の区分では、実習生の実施率が64%、実習担当者の実施率は34%である。全体的な一致率は54%であった。「見学」の区分では、実習生の実施率58%、実習担当者の実施率は48%であった。全体的な一致率は39%であり低い。「経験A」の区分で見ると、実習生の実施率が42%、実習担当者の実施率は32%である。全体的な一致率は55%である。「経験B」の区分で見ると、実習生の実施率が48%、実習担当者の実施率が26%である。全体の一致率は59%である。自己紹介や身だしなみ、挨拶などについては、経験Bの実施率が高いことから実習生が主体的に取り組んでいる様子が窺える。しかし、「子育て支援」については全体的に低く、「チーム保育」については、実習担当者で特に低い傾向が現れた。

4-3 地域、家庭との連携（表3参照）

「説明」の区分で見ると、実習生の実施率が30%、実習担当者の実施率が8%と全体的に低い。全体の一致率は69%である。「見学」の区分で見ると、実習生の実施率が32%、実習担当者の実施率が17%と全体的に低い。全体的な一致率は72%と高い。「経験A」の区分で見ると、実習生の実施率が10%、実習担当者の実施率が11%と低いが、全体一致率は81%と高い。「経験B」の区分で見ると、実習生、実習担当者共に3%と低いが、全体一致率は97%と高い。「登園時の保護者とのかわり」や「家庭への連絡（連絡帳等）」については見学できた実習生が6割程度いるが、「降園時の子どもの様子の伝え方」については、説明、見学、実践全てにおいて実習担当者の実施率0%という結果から経験できていないことが窺える。「生育歴と生育環境への理解」「虐待ネグレクトの理解」の項目については実習担当者の実施率が0～数%に限られていることから、個人情報の保護の観点からあえて実施していない可能性が示唆されたと考える。「地域との連携」では、実習生、実習担当者共に0～数%と低いことから、実習段階では実施することが難しい項目であると考えられる。

4-4 保育の計画と実践（表4参照）

「説明」の区分では、実習生の実施率は57%、実習担当者の実施率は47%である。全体的な一致率は67%であった。「見学」の区分は、実習生の実施率が70%、実習担当者の実施率が59%、一致率は70%である。「経験A」の区分では、実習生の実施率は38%、実習担当者の実施率は34%であり全般的に低い。全体的な一致率は61%である。「経験B」の区分では、実習生の実施率が30%、実習担当者の実施率が21%と全般的に低い。全体的な一致率は73%であった。実習園の保育方針や環境については、「説明」、

「見学」がよくなされている傾向が見られ、一人ひとりへの働きかけに関しては、「経験A」より「経験B」の実施率が高く、実習生が主となって実施していく傾向が見られた。また、「幼稚園教育要領や教育課程のレベル」ではなく、「指導計画のレベル」になると実施率が高くなる傾向が見られた。さらに、具体的な幼児の生活場面では、項目ごとに差が見られた。

4-5 子どもの人権理解（表5参照）

「説明」の区分で見ると、実習生の実施率が50%、実習担当者の実施率が32%である。全体の一致率は59%であった。「見学」の区分で見ると、実習生の実施率は73%、実習担当者の実施率は60%である。全体一致率は72%であった。「経験A」の区分で見ると、実習生の実施率は42%、実習担当者の実施率は39%である。全体一致率は58%となった。「経験B」の区分で見ると、実習生の実施率は34%、実習担当者の実施率は18%であり、全体一致率は73%である。言葉かけや気持ちの受け止めについては、説明、見学共に実施率が高い。雰囲気づくりについては「説明」より「見学」の実施率が高いことから、見て学んでいる様子が窺える。子どもの健康や表情の読み取りの項目でも、「説明」より「見学」の実施率が高く、見て学ぶ様子が窺える。また、事故や怪我の防止についての「見学」は実施率が高いことから、意識して見て学んでいる様子が読み取れる。さらに、おむつ交換や寝かしつけに関しての実施率は低く、あまり経験できないことがわかる。

5 おわりに

本研究の結果より、実習生が経験したと思っていることと、幼稚園現場において実習担当者が経験させたと思っていることに共通点や相違点があることが明らかになった。井澤ら（2015）が指摘した、実習担当者と実習生による評価に差が出る場合があること¹⁴が、保育分野でも見られる可能性が示唆されたと見えよう。実習生と実習担当者の両者が経験録を記入し照らし合わせることで、実習で何を経験するべきなのかを意識し、経験を積むことができるようにするための方策を考えるきっかけとなると考える。

最後に、本研究では、初めて実習を経験する実習生を対象としたため、初期の実習段階としての経験に留まった可能性がある。また、実習生には個別に懇談を行い記入を行ってもらったが、実習担当者は留め置き法をとったため、経験録の記入に関して説明が不足し、困難を生じた可能性がある。さらに、実習生、実習担当者共に6月の実習から5ヶ月程度の時間経過を経た調査だったため、記憶が不鮮明になった可能性もある。このような課題を改善しつつ今後の研究につなげていきたい。

表1 幼児理解

項目			説明			見学			経験A			経験B		
			実習生	実習担当者	両者	実習生	実習担当者	両者	実習生	実習担当者	両者	実習生	実習担当者	両者
			実施率	実施率	一致率	実施率	実施率	一致率	実施率	実施率	一致率	実施率	実施率	一致率
幼児理解	発達理論	①配属クラスの子ども達の発達過程	83%	75%	75%	83%	67%	50%	33%	33%	50%	50%	25%	42%
		②一人ひとりの発達過程	83%	67%	50%	83%	67%	67%	33%	25%	42%	50%	25%	42%
	とりまの育ちと記録の	①一人ひとりの特徴	75%	83%	58%	92%	92%	83%	42%	42%	50%	58%	25%	50%
		②日々の様子の違い	83%	75%	75%	92%	75%	67%	42%	33%	58%	58%	33%	58%
		③内面の理解	75%	83%	75%	83%	67%	67%	42%	50%	42%	58%	17%	42%
		④育ちの理解	75%	67%	58%	83%	67%	50%	42%	42%	33%	50%	17%	50%
		⑤子どもの様子の記録	75%	42%	50%	75%	42%	50%	50%	0%	50%	50%	58%	58%
		⑥5領域の記録	33%	0%	67%	33%	0%	67%	33%	0%	67%	0%	0%	100%
		⑦生活の記録	58%	50%	58%	58%	50%	58%	33%	8%	58%	50%	58%	58%
	汎性発達障害(含広汎性発達障害)	①障がいのある子どもの発達過程	33%	8%	75%	33%	8%	75%	25%	8%	83%	0%	0%	100%
		②障がい児保育の理解と保育の展開	33%	8%	75%	33%	8%	75%	25%	8%	83%	0%	0%	100%
		③障がいのある子どもとのかわり	33%	17%	67%	33%	17%	67%	33%	17%	67%	0%	0%	100%
	全体		62%	48%	65%	65%	47%	65%	36%	22%	57%	35%	22%	67%

表2 専門職としての役割

項目			説明			見学			経験A			経験B		
			実習生	実習担当者	両者	実習生	実習担当者	両者	実習生	実習担当者	両者	実習生	実習担当者	両者
			実施率	実施率	一致率	実施率	実施率	一致率	実施率	実施率	一致率	実施率	実施率	一致率
専門職としての役割	教師の役割	①実習生の自己紹介	58%	50%	58%	33%	67%	33%	33%	8%	58%	67%	75%	75%
		②ふさわしい身だしなみ	58%	58%	67%	58%	75%	50%	17%	17%	67%	83%	75%	58%
		③明るく元気な挨拶	58%	58%	67%	67%	83%	67%	25%	42%	50%	75%	42%	50%
		④子どもの保育	75%	33%	42%	67%	58%	25%	67%	58%	42%	25%	17%	58%
		⑤子育て支援	33%	8%	58%	33%	8%	58%	25%	8%	83%	8%	0%	92%
		⑥教師の一日の業務内容の把握	83%	25%	42%	67%	42%	25%	58%	33%	75%	25%	17%	75%
		⑦報告・連絡・相談	67%	8%	42%	58%	33%	25%	50%	33%	50%	50%	8%	42%
		⑧指示された仕事の責任ある遂行	83%	33%	50%	58%	50%	25%	33%	42%	58%	67%	25%	25%
		⑨保育者の行動の背景にある意図について、質問し、理解	92%	67%	58%	58%	75%	50%	33%	42%	58%	67%	25%	42%
		⑩自分の意見をもった教師との話し合い	67%	25%	42%	58%	42%	50%	42%	58%	50%	50%	0%	50%
		⑪ティーム保育	25%	8%	67%	75%	0%	25%	75%	8%	17%	17%	0%	83%
	全体	64%	34%	54%	58%	48%	39%	42%	32%	55%	48%	26%	59%	

表3 地域、家庭との連携

項目			説明			見学			経験A			経験B		
			実習生	実習担当者	両者	実習生	実習担当者	両者	実習生	実習担当者	両者	実習生	実習担当者	両者
			実施率	実施率	一致率	実施率	実施率	一致率	実施率	実施率	一致率	実施率	実施率	一致率
地域、家庭との連携	ニケーションのコミュニケーション	①登園時の保護者とのかわり	8%	17%	75%	58%	25%	50%	8%	17%	75%	0%	0%	100%
		②降園時の子どもの様子の伝え方	33%	0%	67%	33%	0%	67%	0%	0%	100%	8%	0%	92%
		③家庭への連絡（連絡帳等）	25%	8%	67%	67%	33%	67%	8%	8%	83%	0%	0%	100%
	支援家庭教育における保護者との連携	①生育歴と生育環境への理解	58%	0%	42%	25%	8%	67%	17%	8%	75%	8%	0%	92%
		②その子の良さの発見	58%	17%	58%	58%	33%	58%	33%	17%	50%	8%	25%	83%
		③家庭教育への理解	33%	8%	75%	17%	17%	67%	8%	17%	75%	0%	0%	100%
		④虐待ネグレクトの理解	8%	0%	92%	0%	0%	100%	0%	0%	100%	0%	0%	100%
		⑤ほめ方、叱り方の指導援助	58%	25%	33%	50%	50%	50%	25%	42%	50%	0%	0%	100%
	連携と地域との	①地域社会との交流の意義と実践	8%	0%	92%	8%	0%	92%	0%	0%	100%	0%	0%	100%
		②幼保小の連携	8%	0%	92%	0%	0%	100%	0%	0%	100%	0%	0%	100%
全体		30%	8%	69%	32%	17%	72%	10%	11%	81%	3%	3%	97%	

表4 保育の計画と実践

項目			説明			見学			経験A			経験B		
			実習生	実習担当者	両者	実習生	実習担当者	両者	実習生	実習担当者	両者	実習生	実習担当者	両者
			実施率	実施率	一致率	実施率	実施率	一致率	実施率	実施率	一致率	実施率	実施率	一致率
保育の計画と実践	保育実践理論	①実習園の保育方針の理解と保育の展開	83%	83%	83%	67%	67%	50%	50%	33%	67%	8%	8%	83%
		②一人ひとりの名前の把握	67%	67%	50%	92%	83%	75%	33%	17%	67%	67%	67%	67%
		③一人ひとりへの声かけ	75%	67%	58%	100%	83%	83%	25%	25%	67%	75%	58%	67%
		④一人ひとりの話の傾聴	67%	58%	75%	100%	75%	75%	25%	17%	75%	75%	58%	67%
		⑤一人ひとりのとの会話	67%	67%	67%	100%	83%	83%	25%	25%	67%	75%	58%	67%
		⑥一人ひとりの居場所	50%	58%	58%	83%	83%	67%	25%	33%	58%	33%	33%	33%
		⑦動線に配慮した環境	92%	83%	75%	92%	100%	92%	58%	67%	58%	8%	0%	92%
		⑧体を十分に動かして遊べる環境	83%	58%	58%	100%	83%	83%	58%	58%	50%	25%	0%	75%
		⑨探索活動が十分にできる環境	67%	33%	50%	75%	42%	50%	42%	33%	75%	17%	0%	83%
		⑩興味、関心が高まる魅力的な環境	75%	42%	33%	100%	67%	67%	58%	50%	58%	17%	0%	83%
		⑪一人遊びがじっくりとできる環境	67%	67%	50%	83%	83%	67%	58%	67%	58%	17%	0%	83%
		⑫友達とのかかわりが生まれる環境	83%	58%	42%	100%	83%	83%	75%	67%	58%	8%	8%	83%
	教育要領と指導計画	①幼稚園教育要領の理解と保育の展開	17%	0%	83%	17%	0%	83%	17%	0%	83%	0%	0%	100%
		②教育課程の理解と活用の実践	8%	0%	92%	0%	0%	100%	8%	0%	92%	0%	0%	100%
		③指導計画の理解と活用の実践	75%	50%	75%	67%	42%	58%	58%	33%	25%	8%	0%	92%
		④指導計画と保育内容の関係	75%	67%	58%	67%	50%	67%	58%	33%	25%	17%	17%	67%
		⑤保育のねらいと内容との関係	83%	75%	58%	75%	67%	58%	58%	25%	50%	17%	25%	75%
		⑥登園	92%	58%	67%	83%	75%	75%	42%	58%	50%	50%	8%	42%
		⑦身支度	83%	67%	67%	92%	83%	92%	25%	67%	25%	75%	8%	33%
		⑧遊び	83%	75%	75%	100%	92%	92%	33%	67%	17%	67%	17%	33%
		⑨片付け	92%	75%	83%	100%	92%	92%	67%	67%	33%	33%	17%	50%
		⑩集まり	92%	75%	83%	100%	92%	92%	67%	58%	58%	25%	25%	83%
		⑪おやつ	17%	8%	75%	33%	8%	58%	8%	0%	92%	17%	0%	83%
		⑫食事	92%	75%	83%	100%	92%	92%	67%	75%	58%	33%	8%	75%
		⑬衣類の着脱	42%	58%	50%	67%	83%	67%	25%	58%	50%	33%	8%	58%
		⑭排泄	58%	50%	42%	83%	75%	58%	25%	50%	58%	33%	8%	58%
		⑮午睡	17%	17%	100%	25%	17%	92%	8%	17%	92%	8%	0%	92%
		⑯年齢別活動	67%	58%	58%	83%	75%	58%	58%	58%	33%	25%	8%	67%
		⑰異年齢活動	42%	0%	58%	83%	0%	17%	58%	0%	42%	17%	0%	83%
		⑱降園	83%	50%	50%	100%	58%	58%	75%	58%	50%	8%	0%	92%
	保育の実践	①手遊びの指導	83%	58%	58%	83%	83%	67%	25%	8%	67%	67%	67%	50%
		②絵本の読み聞かせ	67%	75%	58%	92%	100%	92%	25%	0%	75%	67%	92%	75%
		③紙芝居の読み聞かせ	25%	25%	83%	33%	50%	83%	0%	8%	92%	25%	33%	75%
		④ペープサート	0%	8%	92%	0%	0%	100%	0%	0%	100%	8%	17%	92%
		⑤パネルシアター	17%	8%	92%	17%	8%	92%	8%	0%	92%	8%	17%	92%
		⑥エプロンシアター	8%	8%	100%	8%	8%	100%	0%	0%	100%	8%	8%	100%
		⑦歌遊び	25%	25%	67%	83%	67%	67%	50%	33%	67%	0%	8%	92%
		⑧ピアノの演奏	0%	8%	92%	83%	58%	75%	0%	17%	83%	0%	0%	100%
		⑨さまざまな楽器の演奏	0%	0%	100%	8%	8%	100%	8%	17%	92%	0%	0%	100%
		⑩ごっこ遊び	42%	33%	75%	100%	75%	75%	25%	42%	67%	75%	50%	75%
		⑪言葉遊び	25%	8%	67%	42%	42%	50%	17%	25%	58%	25%	0%	75%
		⑫絵画表現	25%	25%	67%	75%	33%	25%	33%	17%	67%	42%	25%	33%
		⑬造形表現	67%	67%	67%	83%	67%	67%	50%	8%	42%	42%	75%	50%
		⑭身体遊び	75%	33%	58%	92%	50%	42%	67%	42%	25%	33%	17%	67%
		⑮リズムを伴った遊び	50%	50%	50%	67%	75%	58%	67%	75%	42%	0%	8%	92%
	研修	①実習目標と反省・評価の記録	83%	83%	67%	50%	58%	25%	42%	42%	50%	58%	42%	50%
		②教師（指導担当教員）の助言、指導の受け止め	83%	58%	42%	50%	58%	25%	42%	33%	58%	58%	50%	58%
		③教師（指導担当教員）からの注意や指摘の受け入れ	83%	58%	42%	50%	58%	25%	50%	33%	50%	50%	50%	50%
全体		57%	47%	67%	70%	59%	70%	38%	34%	61%	30%	21%	73%	

表5 子どもの人権理解

項目			説明			見学			経験A			経験B		
			実習生	実習担当者	両者	実習生	実習担当者	両者	実習生	実習担当者	両者	実習生	実習担当者	両者
			実施率	実施率	一致率	実施率	実施率	一致率	実施率	実施率	一致率	実施率	実施率	一致率
子どもの人権理解	子どもの人権	①分かりやすい温かな言葉	83%	67%	83%	83%	92%	75%	33%	25%	58%	67%	58%	58%
		②気持ちの受け止め	75%	67%	75%	100%	92%	92%	33%	33%	50%	67%	50%	50%
		③せかす言葉、制止する言葉を不必要に用いない	58%	75%	50%	83%	83%	83%	42%	50%	42%	58%	33%	42%
		④性差への先入観による固定的な対応をしない	33%	42%	42%	67%	67%	67%	17%	33%	50%	58%	33%	42%
		⑤自分の意見を言うことのできる雰囲気づくり	50%	50%	50%	92%	75%	67%	58%	50%	42%	42%	17%	58%
		⑥他の子どもの気持ちや発言を受け入れられるような雰囲気づくり	50%	50%	50%	92%	83%	75%	50%	42%	42%	50%	25%	42%
	子どもの健康と安全	①視診	50%	17%	50%	75%	67%	75%	25%	50%	58%	17%	0%	83%
		②一人ひとりの健康状態の確認	58%	17%	42%	92%	75%	67%	42%	58%	50%	25%	0%	75%
		③幼児の表情や泣き声の読み取り	58%	17%	58%	92%	75%	67%	58%	33%	42%	42%	33%	75%
		④スキミング	33%	17%	50%	83%	67%	67%	33%	42%	42%	67%	50%	67%
		⑤一人ひとりの服装、頭髪、皮膚、爪などの清潔さ	25%	8%	83%	58%	33%	58%	42%	33%	58%	17%	0%	83%
		⑥実習生自身の服装、頭髪、皮膚、爪などの清潔さ	42%	42%	50%	25%	42%	33%	0%	17%	83%	100%	67%	67%
		⑦事故やけがの発生の防止	75%	33%	42%	92%	67%	75%	83%	58%	58%	0%	8%	92%
		⑧事故やけがの発生時の報告、対応	58%	25%	50%	83%	50%	50%	67%	33%	50%	8%	0%	92%
		⑨おむつ交換	0%	0%	100%	0%	0%	100%	0%	0%	100%	0%	0%	100%
		⑩おもらしをしたときの配慮	33%	0%	67%	33%	8%	75%	25%	8%	83%	8%	0%	92%
		⑪寝かしつけ	8%	8%	83%	17%	8%	92%	17%	8%	92%	0%	0%	100%
		⑫衣類の着脱への働きかけ	50%	33%	50%	75%	75%	83%	58%	75%	50%	8%	0%	92%
		⑬手洗いやうがいへの働きかけ	67%	42%	58%	100%	75%	75%	67%	67%	67%	33%	0%	67%
		⑭大型遊具等の使用方法、順番の伝え方	58%	33%	58%	92%	67%	58%	67%	58%	58%	17%	0%	83%
		⑮ハサミやナイフなどの道具の使い方	92%	33%	42%	92%	67%	75%	58%	50%	42%	25%	8%	67%
		全体	50%	32%	59%	73%	60%	72%	42%	39%	58%	34%	18%	73%

謝辞

本調査にご協力いただきました、本学附属幼稚園の園長先生、実習担当者の先生、実習生の皆様に深く感謝を申し上げます。

引用・参考文献

- (1) 厚生労働省雇用均等・児童家庭局長、指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について（2015年改正版）
<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000108972.pdf>（2016年12月24日参照）
- (2) 大山博幸・片山友子（2016）社会福祉士養成校協会相談援助実習評価表による実習生の自己評価の試み、十文字学園女子大学紀要46, 139-148.
- (3) 開仁志（2016）幼児教育実習での経験録をもとにする調査、金沢星稜大学人間科学研究第9巻第2号, 29-32.
- (4) 井澤嘉之・柴原直樹・山田州宏（2015）精神保健福祉援助実習における実習指導員による実習評価と実習生の自己評価との差、神戸医療福祉大学紀要16(1), 1-9.
- (5) 開仁志（2014）保育実習における経験録（試案）、富山国際大学子ども育成学部紀要第5巻.
- (6) 前掲書(3)
- (7) 開仁志（2016）実習における経験録（試案）項目の検討、日本保育学会第69回大会発表要旨集
- (8) 同上書
- (9) 同上書
- (10) 同上書
- (11) 前掲書(4)